

ライブラリーニュース5月号

-図書委員（3年生）のオススメ本を紹介します！-

『ビブリア古書堂の事件手帖』 三上延 著



本嫌いの青年が、本の虫の一人の女性と出会い、その女性を中心に様々な本にまつわる事件が起こっていきます！

2013年にドラマ化されました。ドラマとはまた違う良さがあります。頭の中に情景が流れ込んでくるような本です。

『ダレン・シャン 奇怪なサーカス』 ダレン・シャン 著

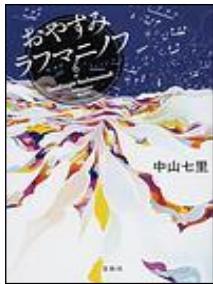


「奇怪なサーカス」を見に行ったダレン・シャンは毒グモを気に入り、盗んでしまう。しかし、その毒グモに友人・スティーブが噛まれてしまい、命を助けるために正体不明のバンパイアと恐ろしい取引をすることになる。

全12巻ある長編ですが、一気に読んでもらうほどドキドキ、ワクワクします。最後まで目が離せません！

何度も読み返したくなる本、そして私も「奇怪なサーカス」を一度見てみたい。

『おやすみラフマニノフ』 中山七里 著



ヴァイオリン奏者、晶はプロへの切符をつかむため練習に励んでいた。しかし、演奏会で使われる2億円のチェロが盗まれる。不安と疑惑が次々においかかり・・・。

様々な人物の思惑、事情がからみあって、最後までどうなるのか予想がつきません。才能の限界、嫉妬心などが描かれ、色々と考えさせられます。音楽についての描写も多いので、音楽が好きな人にもオススメです！

『勝手にふるえてろ』 綿矢りさ 著



江藤良香、26歳。中学時代の片思い以外、恋愛経験ナシ。熱烈に愛してくれる彼が出現し、理想と現実のはざまで揺れ動く良香は時に悩み、時に暴走しながら現実の扉を開けていきます！

この小説はものすごく例えが上手。「まるで～」の言い回しが的確で、また面白い表現になっています！

図書視聴覚課
難波二郎 先生

『もしも原子がみえたなら』 板倉聖宣 著



1年生「科学と人間生活」の授業は、毎年『もしも原子がみえたなら』でスタートしています。「すべてのものが原子でできている」「真空の宇宙空間の中を窒素・酸素分子がマッハ1.5で飛び回っている」など、中学校でも勉強したハズなのに、改めてゆっくり学び直してみると、生き生きとしたイメージで原子・分子が姿を現します。

さて、標記の本はこの授業の元になった絵本です。中間テストは終わりましたが、暇なときに手に取ってみてください。

図書館奥の「自然科学」の棚に平置き（縦）してあります。

今月の担当

- 3-A 西川
- 3-B 入江
- 3-C 小林
- 3-D 岩崎

笠岡商業高校
図書館
2014.5.27